

## 令和2年度 事業報告書

新型コロナウイルスの感染症は、この報告書を作成している現在も収束する気配を見せず、毎日大変多くの感染者を出しています。令和2年度は、我が熱海市シルバー人材センターにも、この感染症の影響が大きく影を落としました。

まず、熱海市シルバー人材センターの状況について、計数的な側面で報告いたします。過去5年間の会員数を年度末実績で比較しますと、平成28年度末が296人、平成29年度末が287人と減少傾向にありましたが、平成30年度には304人、令和元年度が311人と増加しました。そして、令和2年度末は300人となり、このコロナ禍にあって何とか300人台をキープしたことは健闘したのではないかと考えています。

配分金、材料費、事務費を含む契約金額合計は111,114,424円で、前年度の128,093,919円に対して、86.7%、16,979,495円の減額でした。ちなみに公共事業（指定管理含む）が88.6%、7,471,687円減額、民間事業は84.7%、9,507,808円減額しました。今後は会員数の増加とともに、就業率のアップを如何にして図るかが大きな課題といえます。

委員会活動につきましては、広報委員会における年3回の「シルバーだより」や、年1回の「シルバーあたま」の発行において、就業現場やボランティア風景など、会員の皆様の活動をご紹介しました。

安全委員会は、安全パトロールに加え、安全就業や日常の安全への注意喚起をシルバーだよりや文書の送付によって図りました。

業務委員会は、恒例のボランティア清掃を梅園で行い、園内の美しい景観づくりに協力しました。

昨年の3月に改正法が可決・成立した「高齢者雇用安定法」が、この4月に施行されました。改正の内容は、「70歳までの就労機会確保を企業の努力義務とする」という点が中心となっています。これはある意味シルバー人材センターにとっては逆風となる法律ですが、社会全体が高齢者にも可能な限り働き続けてほしいと期待していると考えれば、やはりシルバー人材センターの果たす役割も一層大きくなっていくものと思われれます。

今後も、ニーズに応じた多様な就業機会に応えられるように工夫を重ね、会員数増加を図り、地域の発展に寄与してまいります。